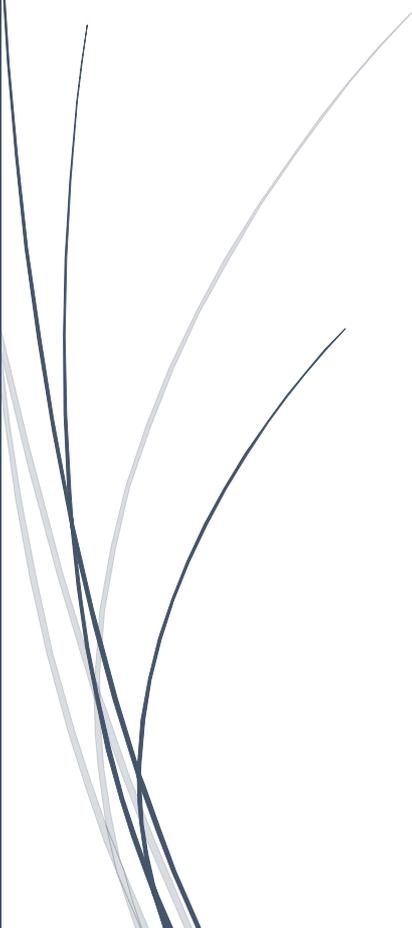


【別添資料Ⅱ】

所属研究団体日本遺伝学会 令和4年度

1. 事業報告書



所属研究団体日本遺伝学会 令和4年度 事業報告

事業計画の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため、下記諸事業を計画する。

1. 学会誌Genes & Genetic Systemsの発行(隔月1回)

- (1) Vol 97 No. 1~No. 5を発行した。
- (2) GGS PRIZEについて、編集委員会で古賀委員より6編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明が有り、審議の結果、次の3編をGGS prize 2022として決定した。

● Title

Activity-dependent endocytosis of Wingless regulates synaptic plasticity in the *Drosophila* visual system

Hinata Kawamura, Satoko Hakeda-Suzuki, Takashi Suzuki*

Published in Genes & Genetic Systems 2020,95(5):235-247.

● Title

Establishment of an “*in saccharo*” experimental system

Tetsushi Iida, Takehiko Kobayashi *

Published in Genes & Genetic Systems 2021,96(3):107-118.

● Title

The *Drosophila* *Nepriylsin 4* gene is essential for sperm function following sperm transfer to females

Takashi Ohsako, Machi Shirakami, Kazuharu Oiwa, Kimihide Ibaraki, Timothy L. Karr, Masatoshi Tomaru, Rikako Sanuki, Toshiyuki Takano-Shimizu-Kouno*

Published in Genes & Genetic Systems 2021,96(4):177-186.

2. 年次大会の開催(第94回大会を北海道大学工学部で開催した。)

- (1) 学会員を対象とした一般口頭発表を開催した。
(一般講演126演題、ポスター発表37演題)
- (2) 海外より研究者Dr. Jiří Fajkusを招聘し、国際シンポジウム「メンデル生誕200年記念」を開催した。(1件、5演題)
- (3) 国内シンポジウムを開催した。(2件、9演題)
- (4) テーマ毎による会員、非会員によるワークショップを開催した。
(11件、52演題)
- (5) 大会で発表する学生の大会参加旅費の一部を援助した。(35件、901,000円)
- (6) 男女共同参画推進の一環として大会へ参加するための支援(1件、42,000円)をした。また、大会中に男女共同参画フォーラム「男も女も無意識のバイアスだらけ。あなたの何気ない認識、それでいいですか?」を開催した。
- (7) 第93回大会Best Paper賞受賞者によるプレナリーワークショップを開催した。
- (8) 第94回大会一般口頭発表者からすぐれた成果を発表した11名にBest Paper賞を授与した。
- (9) 第94回大会ポスター発表者からすぐれた発表をした5名にポスター賞 (Young Best Poster 賞)を授与した。
- (10) 台湾(Academia Sinica)から学生1名がオンラインで口頭発表をして国際交流をはかった。

- (11) 遺伝学若手の会による「あつまれ、若手研究者の世界～皆でディスカッションだ！」をワークショップ枠で開催した。
- (12) 最近定年を迎えられた4名の先生方による最終講義を開催した。
- (13) 総会を大会最終日に開催し、その後、木原賞・奨励賞の授賞式、受賞講演、Best Paper賞・Young Best Poster賞の授賞式を開催した。
- (14) 市民公開講座『次々と現れる新型コロナウイルス変異株の進化遺伝学』を開催した。

3. 木原賞・奨励賞の授与

7月15日にオンラインにて開催された学会賞選考委員会で審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞：石野良純会員、小林一三会員

奨励賞：福田溪会員、藤泰子会員

4. 遺伝学談話会の開催

第20回 遺伝学談話会を中国・四国地区評議委員の石井浩二郎会員と田中誠司会員が世話人をつとめ、10月14日に高知工科大学にて開催した。九州大学理学部の高橋達郎先生と、東京大学医科学研究所の西山敦哉先生にご講演いただいた。

5. 春季分科会

第3回日本遺伝学会「春の分科会」を3月27日に国立遺伝学研究所講堂にて開催した。

6. 委員会の活動等

(1) 遺伝学教育用語検討委員会

「遺伝学教育用語検討委員会」を設置し、引き続き遺伝学に関する学術教育用語の整理を進めた。

奇形を含む医学用語改訂に関するワーキンググループに参加した。

(2) 男女共同参画推進委員会

引き続き男女共同参画学会協連絡会へ参加し、夏学オンライン2022のポスター・キャリア相談に参加した。また、大会初日にフォーラムを開催した。

(3) 遺伝学普及・教育担当委員会

中学・高校を対象としたオンライン講師派遣事業を開始し、8月17日に第一回を実施した。また、Asia-Pacific Genetics Seminar Seriesを3回開催した。

(4) 将来計画委員会

遺伝学会会員の意識調査アンケート結果をHPに掲載した。

(5) 生物科学学会連合

生科連を通してDORA(研究評価に関するサンフランシスコ宣言)に署名することとした。また、生物教育用語要望調査のアンケートに協力した。

(6) 自然史学会連合

本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外科学に関連する学会と協力して、幅広い活動を進めた。

(7) 遺伝学若手の会が発足した。

7. 運営規則について

令和4年3月31日に第3条、第6条を改正し、令和4年4月1日から施行した。

8. 学会賞および奨励賞に関する規定について

令和4年9月16日に第4条(賞の選考)を一部改正した。